

12/8 12/22 ボランティア学習会



- ### 学習会の流れ
- 1 学習会開催の目的説明
 - 2 聴覚障害児デイサービスとは？
 - 3 手話で話してみよう
 - 4 参加児童やボランティア同士のコミュニケーション方法は？
 - 5 みんながわかるようにグループで話そう！



手話がわからないとき
はどんな方法がある？



聴覚障害児デイサービス Q&A

Q. 聴覚障害児デイサービスってなに？ 参加できるのはどんな子どもたち？

A. 夏休み、冬休み、春休みの長期休暇に小学校・中学校に通う子どもたちが集まり、様々な取り組みを行っています。プール遊びや科学実験、流しそうめん、クリスマスパーティ、書初めなどが定番の取り組みです。

聴覚障害のある子どもたちやその兄弟・姉妹、お友達、聴覚障害者の保護者を持つ子どもたち、家族に聴覚障害者がいる子どもたち、聴覚障害のある幼児(保護者と一緒に参加)が参加できます。

Q. いつから始まった取り組み？

A. 2009年から始まった取り組みです。ろう学校に通う子どもたちは、家に帰ると地域の学校に通う子どもたちと触れ合う場所がなく、地域の学校に通う聞こえにくい子どもたちは、同じ聞こえにくい子どもたちと会うことが少なく、手話で話す機会もほとんどありません。どの学校に通う子どもたちもみんな楽しく過ごせる場所を作りたいなあ…という声があり、デイサービスが始まりました。

Q. 聞こえにくいお友達が付けている補聴器ってなに？

A. 聞こえにくい音を大きくしたり、聞きやすい音に変えて音の情報を伝えたりするものです。音を大きくする機械のため、大声や大きな音はもっと大きく聞こえ、補聴器を付けているお友達がびっくりすることもあります。補聴器を付けても正常の聞こえ方にはなりません。

☆もっと聴覚障害児デイサービスや補聴器のことを知りたい人は下記の2つを紹介します。

なお、①を読みたい人は実行委員会 事務局までご連絡ください。

①聴覚障害児デイサービス実行委員会(2012)『きこえない・きこえにくいってなあに？』

②加我君孝(2016)『耳と補聴器のひみつ』(学研まんがでよくわかるシリーズ121)学研プラス



編集後記

今回、初めての試みとして、冬休みの取組前にボランティア学習会を開催しました。内容は山城ろうあ協会に協力してもらい、ろうあ者主体で模擬会議を進めてもらうというものです。手話がまだ片言でしか話せない受講者は会話についていけず「辛い」と感じた方もいたでしょう。その「辛さ」こそを体験してもらうことが狙いでした。ろうあ者は、健聴者が大多数の社会に出た時にいつも会話についていけない「辛い」思いをしています。受講者に似た経験をしてもらい、ろうあ者の辛さを理解し、手話など視覚的なコミュニケーションの大切さをわかって欲しかったのです。中には強い疎外感にボランティアをする気も失せた方がいたようです。模擬会議という限定的な時間だけでも耐え難かった訳です。でもろうあ者はそれが日常です。ろうあ者はその耐え難い疎外感の中で生きているのです。聞こえにくい子ども達も同じです。荒療治的な学習会でしたが、手話ができなくても伝えることの大切さを学べる意味のある体験だったと自負しています。これからもこの学習会を継続して少しずつ理解を広めていきたいと思います。そして聴覚障害児デイサービスは、この貴重な体験をして頂いたボランティアの皆様を支えられながらの活動です。感謝とともにこれからもご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

実行委員長